FM YAMATO 77.7MHz

やまもり☆ホッとスクランブル
大和市民活動センターだより

『やまとっこ☆みつけた』

FMやまと

第 445 回 2/6「大和たんぽぽの会」

会長 石川克子さん　**会員　小島ヒロ**さん

会長の石川さんが中心となって、子育てほっとサロン「たんぽぽ」を運営しています。会の名を「たんぽぽ」としたのは、「たんぽぽ」ってすごく厳しいところでもしっかりと根付く。そして、花が咲き、綿毛が飛んで拡がっていくと言われ、みんなが会の名に賛同したからです。

現在、子育てをしているお母さん達の環境は、つながりが持ちにくく、家の中で閉じこもることが多くなっています。お母さんたちが少しでも楽になるようにお役に立ててればと考えて活動してきました。また「たんぽぽ」は、お母さんだけでなく、家族や祖父母と子どもでも参加できます。

会員の小島さんは、きどらない家庭の延長のようなホッとするスペースの中で、ありのままの親子の姿や、あどけない子どもたちのしぐさを楽しみながら活動されています。また、赤ちゃんから大人まで、どんな状況の方でも楽しめる「第４回たんぽぽ音楽会」を開催します。（２月２４日（土）に開催されました♪）

第 446 回 2/20　「歴史工房やまと」

会長 酒井順子さん　**会員　酒井成実**さん

「歴史工房やまと」は、大和に生きた人、現在住んでいる人から、その体験や経験を聞き取って、歴史の中に位置づけたい。みんなで、大和の歴史を作っていこうという活動をしています。

大和のまちを支えてきた人（亡くなった人も）の人生の体験や経験を拾い出して、市民のまなざしから見た歴史を書きたい、それは、自分ひとりじゃなくて一緒にやってくれる人がきっといると思い、昨年８月に会を立ち上げました。現在のメンバーは４人です。

「歴史工房やまと」の次の目標は、聞き書きをまとめて冊子を作って、公的な資料館に残してもらえるようにしたい。それだけのレベルの聞き書きを私たちは努力して行っていきたいと思います。

ラジオを聞いているみなさん～ぜひ仲間になってください♪

３月の出演　第 447 回 3/5「大和ウクレレ倶楽部」 第 448 回 3/19「サークルありんこ」
FM やまと 77.7MHz 第 1.3.5(火) 生放送 9:00～9:30 同日再放送 15:00～15:30

TSUBASA's トーク　第２８回　「シニアがパソコンを学ぶ意味を問いたい」

シニア世代にとってパソコンへの挑戦は、一歩を踏み出すのが大変で、気持ちが消極的になっちゃうものらしい。子どもの頃にはなかったものだから、なかなか操作を覚えられない。

「パソコンなんて得意な若者にやらせればいいのに、なぜわざわざシニア世代が学ぶのだろうか。苦労を背負う必要はないじゃないか。」

大和市民活動センターに電話をした際に、この疑問をスタッフの関根さんに投げかけたところ「今はわからないかもしれないけど、年をとっても常に自己実現を求めるものなんだよ。」と。「自分でできることは、自分でやりたいと思う高齢者もいるよ！」

本当かなぁ。
ひとつ思い当たる出来事はあるけれども。

２月の休日に、愛川町民サポートセンター（サポセン）を訪れた。新しい土地で仕事を始めたこともあり、市民活動とのこれからのつきあい方を模索したかった。

役場の隣の建物の、ガラス張りのスペースの中にサポセンはある。中を見ると、自分よりずっと年上の人たちが、いくつかある円卓に座り、パソコンを使い話し合いをしていたので、身内のような雰囲気に疎外感を覚えた。「ここは突然訪れて大丈夫な場所か？」と思いつつも、KY になりきって入る。

室内は壁一面に活動団体の紹介写真。部屋の仕切りの奥の長机で、10 人くらいが会議をしているように見えた。

「今日は盛況ですね。パソコンのことだけじゃなくて、人生相談もできますよ。」と、サポセンのスタッフに声を掛けられる。毎週土曜日にパソコン相談室が開かれているらしい。壁の写真に「PC ビギナーズ」という団体を見つけた。

相談の様子を眺めていると、一人の男性が気づき近づいてきた。スタッフに「代表の方で」と紹介してもらった。年齢は 80 を超えているそうだ。「若い人に来てもらえると相談室も盛り上がる」と例のごとく勧められる。そして、男性が目を細めて口の端を釣り上るように笑い、子供を誘惑するような声で「楽しいよぉ」と。

ああ、この人は心から楽しんでいるんだ。

「好奇心の結実じゃないかな。ものを教えたりするとかも、自分でやってみたいっていうことで。」

なるほどな。自分もシニア世代になったら、何かの教室に通っているのだろうか。

一つ思いついたのは、ゲームを通じて他国の人と友達になるための教室だ。最近の小学生には、ゲームの中でできた友人と放課後過ごす子も多いらしい。自分はこれについて「ゲームの中での人間関係なんて、本物じゃない」と思っているのを言い訳に、バーチャルでの関係づくりには消極的だ。

（サポーター　尾畑　翼）

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第 200 号　発行日：2024 年 3 月 10 日　　**発行：大和市民活動センター　拠点やまと**

大和市民活動センター <開館日 月～土 9:00～18:00>
<休館日 12 月 29 日～1 月 3 日･毎月第 3 月曜日>
〒242-0018 大和市深見西 1-2-17

TEL:046-260-2586　FAX:046-205-5788
e-mail:yamato@ar.wakwak.com
http://www.kyodounokyoten.com/

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

あの手 この手

あの手この手のマークの間のSは solution（解決）のSです。
第 200 号 2024年３月 10 日　大和市民活動センター［拠点やまと］ 発行
3 月号 2024

ベテルギウス玄関
3月4日の生け花

表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ」(IFC)主催
「第 16 回やまと国際アートフェスタ」
入賞作品を毎号掲載しています。

今回のテーマ　～ここから、未来へ ～
バラード賞
瀧川　ビアンカ　チエミさん
草柳小学校5年　ブラジル

タイトル ：「さくらの希望」

メッセージ
「桜の木は元気よく花がいっぱい咲いてるので、みんなが見たら元気がでるようにかきました。」

☆「やまと国際アートフェスタ」は、「やまと国際フレンドクラブ」(IFC)＊の主催で毎年開催されています。
＊「IFC」は、草の根の国際交流、外国人支援を行っている、「ともにくらすまち大和」を考えるボランティアグループです。

今月の「あの手この手」は200号です　全号を揃えて窓口に置きます…　ページをめくる度に　“思い出”　が飛び出します♪

初回編集後記には「全て手作りで…やっとここまできました」とあります。懐かしい思いです。

大和市民活動センター創立２０周年記念　を今年 11 月に予定します。下記をもって皆さんと語り合いましょう！

★「あの手この手」　208 号
★「FM やまと出演」　465 回
★「ニュースレター」　237 号
★「カッコーフェスタ」　16 回

「あの手この手」創刊
2005 年3月31日

「あの手この手」50号
2011 年９月1日

「あの手この手」100 号
2015 年 11 月 10 日

「あの手この手」150号
2020 年１月 10 日

第１０６回 共育セミナー（開催レポート）
こども・わかもの参画
地域活動拠点に求められるもの

鈴木貫司さん

小川杏子さん

船越英一さん

第１０６回共育セミナーを２月１７日（土）に、鈴木貫司さん（静岡県菊川市市民協働センター・NPO 法人わかもののまち）、小川杏子さん（特定非営利活動法人パノラマ 子ども・学校連携事業統括）、船越英一さん（認定特定非営利活動法人 NPO サポートちがさき ちがさき・さむかわこどもファンドプロジェクトリーダー）の３名をゲストスピーカーにお迎えして開催しました。

トークセッションの２部構成で行い、トークセッション１では、それぞれの事例発表。トークセッション２では、ワークショップ（各事例発表の感想と質問事項をまとめて、代表者がインタビュー）を行いました。

今回の報告は、「こども・わかもの参画　地域活動拠点に求められるもの」を開催するにいたった背景や、今後の課題を整理すると共に、当日の様子を参加者の感想などを中心にまとめて、今後大和市民活動センターが「拠点」（こども・わかものの居場所）としてどのように役割を果たしていくべきか、前向きに考えていくための大きな参考になりました。

2023 年４月に、「こども基本法」の施行及び、こども政策を推進する「こども家庭庁」が設置され、「全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的な活動に参画する機会が確保されること。そして、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されること」が明記されました。

今回の共育セミナーでは、

①「こども・わかもの参画」に先駆的に取り組まれている事例として、鈴木貫司さんからは、日常の実践報告として、「多様な人の参加・参画の機会」を提供する中でも、市民協働センターがハブとなって、地域と若者をつなげ、参加・参画をサポートする取り組みについてお話を伺いました。

②既存の枠組みからはこぼれてしまい、社会から見えにくくなっている若者を支援する取組みとして、小川杏子さんから、「小さなつぶやきをかたちに…」するにはどうしたらよいか、校内居場所カフェを運営する中で見えてくるもの、課題等について伺いました。

③船越英一さんからは、こどもたちが自ら気づいて、提案した事業を支援して、社会参画にワクワク感を持たせる「ちがさき・さむかわこどもファンド」の取り組みをお話しいただきました。

共育セミナーには、スタッフ含めて１８名の参加を得て開催いたしましたが、各発表者の活動への思いが感じられる発表は全ての参加者に届いたと思います。後半のワークショップでは、各発表内容の感想を出し合うとともに質問事項を整理して、インタビューを行うという形式を取りました。

この場を共有した皆さんが、「こども・わかもの」の参画を自身のことと捉え、関心を持って活動するきっかけになれば大変うれしく思います。

菊川市市民協働センター

菊川市は、静岡県東遠地域に位置する都市で、気候は温暖で深蒸し茶の産地として知られている。人口 47,544 人（外国人市民 3,954 人　約8．4%）

菊川市市民協働センターは日常的に市民活動を支え、更に活動の成長を促す拠点として、多様な主体的をつなぐコーディネーターとしての役割を果たしている。若者の参画に取り組むことができている背景としては、菊川市と市内にある2つの高校（県立、私立）と包括的な連携協定（フレンドシップ協定）を締結していることが大きく寄与しているようで、フリースペースには放課後多くの中高生が集まったり、私立高校の美術デザイン科の生徒が主体となって実践するアート教室、高校生、大学生、社会人で構成された「菊川まちづくり部」がユースカウンシルとして若者の声を集め、政策提言まで行うことを目標に活動するなどしている。

昨年 11 月には、鈴木さんも所属する NPO 法人わかもののまちが主催する「わかもののまちサミット 2023 にて、高校生を含む協議会委員と菊川市長が、「菊川市こども･わかもの参画宣言」が発表されている。

菊川市市民協働センター
HP　わかもののまちづくり事業

特定非営利活動法人パノラマ

NPO 法人パノラマは、2015 年 3 月設立し、神奈川県横浜市を中心に、高校生と若者が社会的に包摂される社会を目指し活動しています。パノラマ写真を「社会的包摂」のメタファーとして考え、「すべての人をフレームイン！」を合言葉にしています。

後半のトークセッション２では、

○鈴木貫司さん(菊川市市民協働センター)の発表に対して
★高校生の居場所がにぎわっていることに驚いた ★子どもが「やってみたい」ということにチャレンジできる場や機会があってうらやましい ★そういう活動をしたい若者が沢山いて、えらいな

○小川 杏子さん（NPO 法人パノラマ）の発表に対して
★必用なものを必要としている人に届けているように感じられる ★言葉の背景や言葉のこまかなところまで気を配っている
★小さなつぶやきは大事

○船越 英一さん（ちがさき・さむかわこどもファンド）の発表に対して
★子どもたちに地域に何が必要か、何ができるかを考えさせて、それをプロジェクトにしてまとめていく過程が非常によかった
★昭和時代に小中高を経験した。私にとって「こどもの社会参画」というキーワードがとても新鮮に感じた
★ソンタクしないのがよい　などの感想が発表されました。

次に、ワークショップの参加者から事例発表者への質問はインタビュー形式で行われました。3 例とも、どこの自治体でも行われているわけではない、先進事例だったので、鈴木さんには、「どうやってこどもたちを集めたのですか」、「『やってみたい』が『やってみよう』になる最大のキーポイントは？」、小川さんには、「どうやって学校から信頼を得ていったのですか」、「関わる上で、何を大切にしていますか」、船越さんには、「スタート時と終了時で地域との関わりがどう変わりましたか」、「助成金の管理はどうしているのですか」、「選ばれなかったグループの子どもたちの様子はどうですか」などの質問が寄せられました。

また、それぞれが、大事にしていること、大事と思っていることについては、

●鈴木さんは、こどもがやってみたいと言ったことを「いいじゃん」と言ってくれる大人がいること。ぼそっと言ったことについて、大人が問いかけ、背中を押す、伴走していくことが大事。

●小川さんは、生徒に関わるときは、出来るだけフラットでいる。肩に力を入れないで、このままでいる。先入観にとらわれた見方をしない。

●船越さんは、こどもたちの提案に大人がはっとして気づくことが多い。ある意味、大人アドバイスは不要。子どもたちが気づくことで社会が変わっていくことが大事。「子どもが判断する」のが胆。

セミナーの終わりに、鈴木さんが、「若者発」「若者主体」を大人がどれだけサポートできるか、かといって、大人が支援をするというのではなくて「一緒に社会をつくっていくパートナーだよね」という視点を持って、若者とかかわっていける社会になればと思って頑張っていると言われたのが印象的でした。
参加者の感想に「場所は違えど、思いは共通していて、大きな可能性を感じる」とありました。この思いは、他の参加者の皆さんも感じられたのではないでしょうか。

大和市民活動センターは、わかものとかかわりとしては夏休みの「このゆびとまれっ！」で、中高生と少し持っていますが一番手薄な部分です。大和市民活動センターも来年度で 20 周年を迎えます。これを機に何ができるか、みんなで考えていきたいと思っています。手始めに、市民交流スペースでの「わかものカフェ」開催します!?

（この項文責：櫻井美紀子）

ちがさき･さむかわ こどもファンド

2022 年度「海の輝きを取りもどせ！6－1 ベンチ DIYプロジェクト」という事業の完成記念写真。小学校 6 年生の1クラス全員で、ベンチの背もたれのプラスティックには茅ヶ崎市の西浜海岸で取ってきたプラごみが入った手づくりベンチを不動産屋さんの前に、歩行者の休憩用に設置した。

「ちがさき・さむかわ こどもファンド」は、

2022 年に始まったこどもがチーム （3人以上、小学校3年生～18歳）を組んで行う、主体的な活動を支える民間のファンドです。こどもが考えたプロジェクト（まちをよくする活動）を企画して、予算計画をまとめて、プレゼンテーションをして、こども審査員（小学 3 年生～18 歳）が審査して、採択されると活動資金（最大 5 万円）が提供され、こどもがプロジェクトを実行する仕組みです。

後半のワークショップは参加者が 3 グループに分かれて、各事例発表者への質問と感想を話し、代表者がインタビューをする形式で行いました。

編集･文責：船越　英一　イラスト：望月　則男

２月の展示コーナー

市民交流スペース内の「展示コーナー」では、個人・団体の活動の紹介や作品展を行うことができます。申込み方法については、大和市民活動センターまでお問い合わせください。

2023 年秋、ベテルギウス内のやまと起業家支援スペース「Rigel」（インキュベーションオフィス）の一室にオープン。ハンドピックした古着を扱うセレクトショップです

共育ボードより　☆センスがいいし、めちゃくぁいい！ ☆安いのにオシャレが楽しめてすてきです!! ☆Kitty❤ ☆パーフェクト！すてきです！ ☆イヤリングかわいい！ ☆リボンの指輪･･･高級感があるのに安い！この指輪に青色とか色つけたらそく買い！ ☆買いたいです ☆ とてもいいデザインですね ☆古着を買うのは 20 代 の頃以来です。発見がとても楽しい♪時々寄らせてもらいます。 ☆ 一つで色々なオシャレを楽しめてすばらしいです!! ☆ 天才だと思います!! ☆ Good!!とてもいいです❤ ☆どれも美しくセンスを感じます!!fight! ☆どれもステキです。頑張ってください！ ☆素敵ですね！応援してます！